

幼児教育から小学校教育へ  
架け橋期のカリキュラム

やまなし  
保幼小連携・接続ガイド  
～子供の育ちと学びをつなぐ～



令和5年3月



やまなし幼児教育センター



# 目次

## I 保幼小連携・接続について

1 育ちと学びをつなぐ保幼小連携・接続	2
2 カリキュラムによる接続の必要性	4
3 「幼保小の架け橋プログラム」とは	6

## II 育ちと学びをつなぐカリキュラム

1 架け橋期のカリキュラム	7
2 5歳児のカリキュラム	8
3 スタートカリキュラム	10
4 カリキュラム編成の留意点	12
◆ 地域における合同研究会等のもち方(例)	13

## 巻末資料

・架け橋期のカリキュラム(モデル案)	15
・5歳児のカリキュラム(モデル案)	17
・スタートカリキュラム(モデル案)	18
・関連資料等	25

### 「保幼小」と「幼保小」の使い分けについて

山梨県はこれまで、幼稚園・保育所等と小学校のことを、施設にいる子供の年齢が小さい順に並べ「保幼小」と表記してきました。

文部科学省は、幼稚園を所管していることから「幼小」と表記していましたが、令和4年3月に示された架け橋プログラムの中では、「幼保小」と表記しています。

本ガイドにおいては、文部科学省から出されている架け橋プログラムに関わる内容の際には、「幼保小」と表記し、他の部分では、従来どおり「保幼小」と表記することとします。



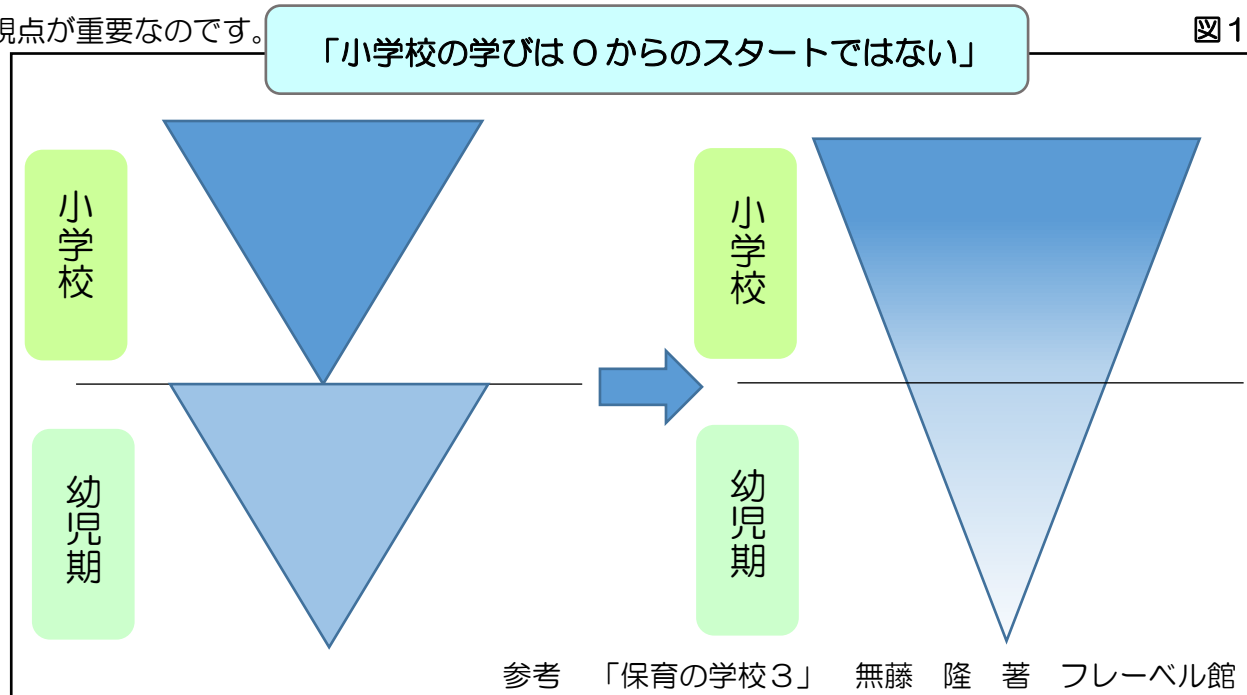
# I 保幼小連携・接続について

保幼小連携・接続の重要性については、10年以上も前から言われ続けてきました。これまでは、小学校入学後の児童の落ち着きのない行動が数か月続いてしまう状況、いわゆる「小1プロブレム」の問題を解消するため、その必要性について言及されており、特に、小学校生活に適應するための取組を行ってきました。

しかし、保幼小連携・接続は、目に見える課題だけが問題なのでしょうか。幼児教育から小学校教育への移行期の環境の変化はどの子供にも起きています。一人の子供の成長は、分断されているものではなく、連続性の中で育まれています。今言われている保幼小連携・接続は、子供の育ちや学びの連続性を保障することに主眼を置いたフェーズに移行しています。だからこそ、幼児教育から小学校教育へと円滑に接続するために、子供の育ちや学びのつながりを見通して、取組を工夫し、充実を図る必要があるのです。

幼児期の「遊びを通した総合的な学び」から小学校以降の「教科等を通した学び」へ接続するには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿<sup>1</sup>」を手がかりとして、幼稚園・保育所・認定こども園等（以下、「園・所等」という。）と小学校双方が、育ちや学びの連続性・一貫性を意識したカリキュラムに基づいた、教育活動を展開し、発達特性を踏まえ、その時期にふさわしい生活や活動を通して、資質・能力を育てていくことが重要です。

園・所等は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、環境構成を工夫したり活動を組んだりして、資質・能力を育みます。そして、小学校にその姿を語り、共有することで育ちと学びをつなぎます。小学校は、幼児教育での育ちと学びを基礎として、その上に学びを積み重ね、広げていくことが求められます。つまり、「小学校の学びは0からのスタートではない」（図1）という視点が重要なのです。



<sup>1</sup> 要領・指針等の第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各園・所等で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。

義務教育開始前後の5歳児から1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期とされています。実効性のある保幼小連携・接続に取り組むことは、その後の学びの基盤をつくることであり、子供の前向きに生活する力の育成や自立につながるのです。

## 1 育ちと学びをつなぐ保幼小連携・接続

小学校学習指導要領と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、「要領・指針等」という。）の改訂では、幼児教育から高等学校教育までを見通して、一貫して育てたい資質・能力を三つの柱で整理しました。これにより、園・所・学校種間における学びの連続性が示されました。

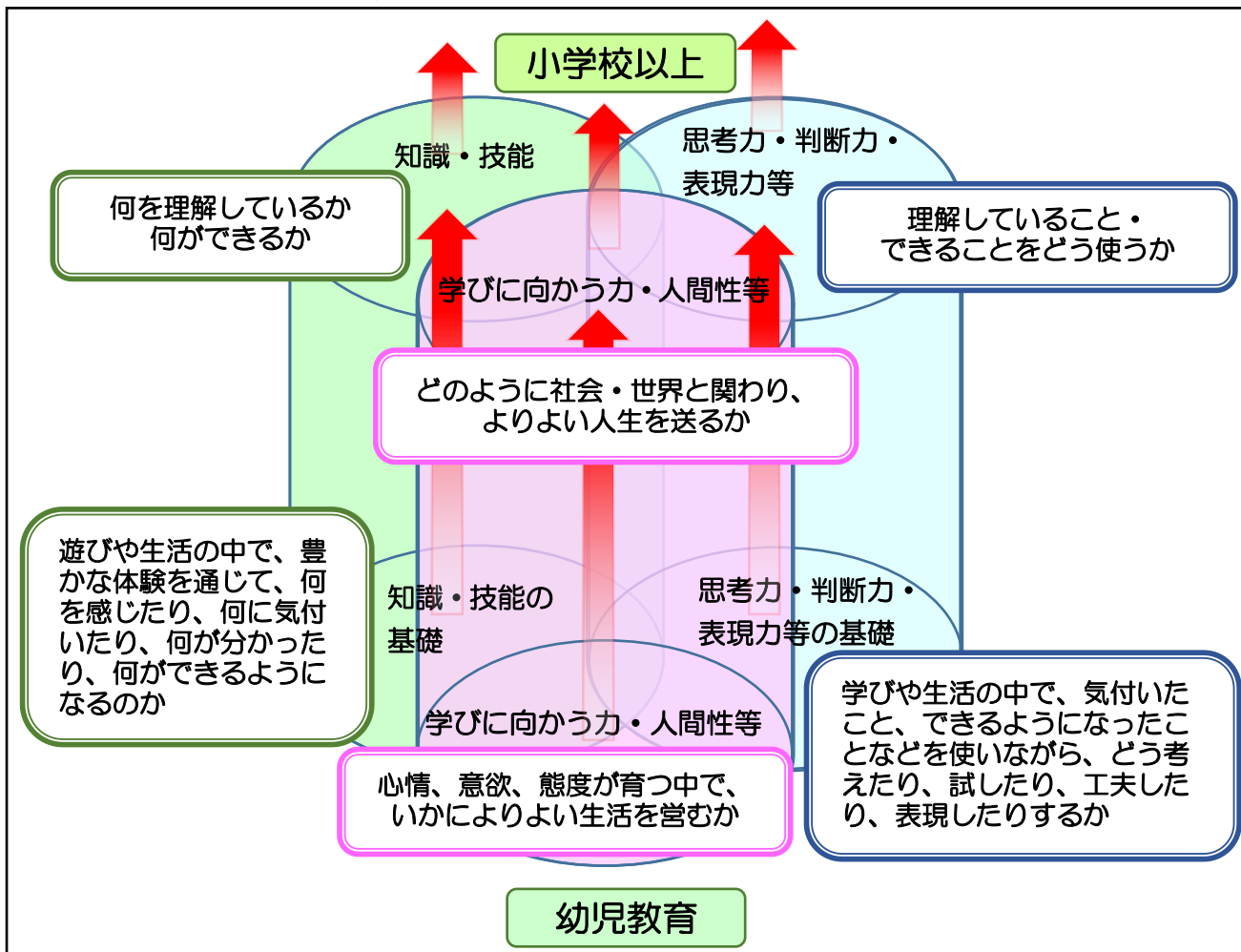
幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。幼児教育においては、生きる力の基礎を育むため、幼児期の特性を踏まえ、遊びを通しての総合的な指導の中で、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を一体的に育てていくことが示されています。

小学校以降は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要です。小学校の以降の教育においては、生きる力を育むため、教育課程全体を通して育む資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力人間性等」と示しています。

園・所等では、育む資質・能力が小学校以降にどのように育つのかを見通し、小学校では、園・所等で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育をスタートさせることと、更に小学校で育む資質・能力が中学校以降にどのように育つのかを見通すことが必要です。

つまり、生きる力を育むために、幼児教育段階で育まれる資質・能力の基礎と小学校以降で育まれる資質・能力は、分断されるものではなく、連続した教育の中で育まれていると考えることが大前提になったのです。（図2）だからこそ、実効性のある保幼小の円滑な連携・接続の取組は、園・所等及び小学校にとり、不可欠な取組になるのです。

保幼小連携・接続は、幼児教育と小学校教育での育ちや学びの連続性・一貫性を理解した上で進めていくことが重要です。



◇ 幼稚園教育要領の保幼小連携・接続に関する記述

幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

(幼稚園教育要領「第1章 総則、第3 教育課程の役割と編成等、5 小学校教育との接続に当たっての留意事項(2)」 ※保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも同様の記述があります。)

#### ◇ 小学校学習指導要領の保幼小連携・接続に関する記述

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

(小学校学習指導要領「第1章 総則、第2 教育課程の編成、4 学校段階等間の接続(1)」)

## 2 カリキュラムによる接続の必要性

要領・指針等は、小学校学習指導要領と異なり、「～を味わう」、「～を感じる」などのように、その後の教育の方向付けを重視した目標で構成されています。これは、発達の段階に配慮した違いですが、幼児期について、要領・指針等から具体的な姿が見えにくいという指摘がありました。

そこで今回の改訂では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化し、各園・所等において、幼児の発達や学びの個人差に留意し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体的にイメージしつつ、日々、豊かな教育・保育活動が展開されるよう工夫する必要があるとしています。また、各小学校においては、園・所等と子供一人一人についての情報を共有し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解した上で、保幼小接続の具体的な取組を進め、育ちや学びの連続性を確保することが求められています。

保幼小の円滑な接続は、幼児教育と小学校教育について理解し合い、子供の発達を理解することから始まります。「幼保小の架け橋期のカリキュラム<sup>2</sup>」は、5歳児から小学校1年生までの2年間の育ちや学びをつなぐための具体的な保育や教育を示したものになります。これは、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、育成を目指す資質・能力をつなぐ視点から策定していきます。

園・所等や小学校及び関係者が協働してカリキュラムを編成することは、互いの教育や子供の発達を理解することにつながります。また、子供の育ちや学びを見通す中で、それぞれの教育課程や指導計画を具体化することが可能になり、その発達段階ならではの子供の発達を促す教育・保育や授業づくりの実現につなげることができます。

<sup>2</sup> 「幼保小の架け橋プログラム」では、5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」と言っています。この2年間のカリキュラムについて、保幼小の先生方、自治体、地域等の関係者が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定するものと示しています。また、このプログラムは、保幼小の先生方が一緒に振り返って評価し、改善・発展させていきます。

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

表1

(1) 健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
(2) 自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
(3) 協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
(4) 道徳性・ 規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
(5) 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
(6) 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
(7) 自然との関わり・ 生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議や尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
(8) 数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
(9) 言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
(10) 豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

(幼稚園教育要領「第1章 総則、第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」)

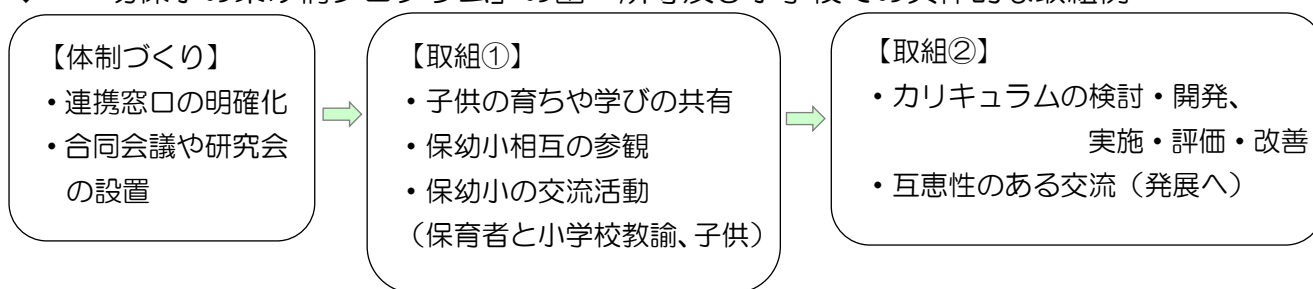


### 3 「幼保小の架け橋プログラム」とは

文部科学省は、令和4年3月31日付で「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」について示しました。「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に個別最適な学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

取組全体を通じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園長・校長のリーダーシップと自治体の支援の下、園・所等と小学校の保育者や教諭等が、子供の育ちを中心に据えた対話を通して相互理解・実践を深めていくものです。

#### ◆ 「幼保小の架け橋プログラム」の園・所等及び小学校での具体的な取組例



持続的・発展的な取組になるよう、取組に対する評価等を行い、自治体と連携し、地域の実態に応じながら見直し、改善を図ります。また、取組体制や内容を見直し、行きつ戻りつしながら充実させていきます。

## II 育ちと学びをつなぐカリキュラム

### 1 架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラムは、保幼小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら作成した5歳児から小学校1年生までの2年間を対象としたカリキュラムです。架け橋期のカリキュラムは、関係者が合同の研究会等を持ち、協議する中で作成し、各園・所等及び小学校の取組の中で具体化していくものです。

#### ◆架け橋期のカリキュラムの作成モデル案の見方

図3

架け橋期のカリキュラム（モデル案）

共通の視点		0歳～	5歳児										小学校1年生																																																		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																						
①期待する子供像		●それぞれの園・所、小学校の目指す子供像（教育目標） ●各自治体・地域の願い												●幼児期の教育を通して育まれてきたことを基に、学習の質に大きく関わる語彙量を増やすことなど基礎的な知識及び技能を身に付ける ●感性を豊かに働かせ身近な出来事から気付きを得て考える ●自ら学びに向かう、自己の感情や行動を統制する、互いの違いと良さを認め生かして協働する																																																	
②遊び・学びのプロセス		◆遊びを通して、多様な仕方で環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を発見する。 ◆幼児期の経験を生かす												◆学ぶことへの意識があり、各教科の学習内容について授業を通して個別の学習活動や協働的な学習活動をし、学んでいく。																																																	
生活のプロセス		自信：ようちえんはまかせて！ 自律的な生活習慣を確立する時期												あこがれ：1ねんせいってかっこいい！ 学校生活への思いを明確化する時期										期待：かっこうたのしみ！ 自信をもって学校生活に臨む時期										期待と不安：安心：活動を慣れる時期 活動を開始する時期										挑戦：活動を楽しむ時期										成長の自覚：1年間を通じた成長の確認とこれからの成長への期待									
③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等		5歳児のカリキュラム												◆スタートカリキュラム										1年生のカリキュラム																																							
		○明るく伸び伸び行動したり、進んで運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活 ○身近な人と親しみ、工夫したり、協力したりして一緒に活動することを楽しめる遊びや生活 ○身近な環境に親しみ、発見を楽しんだり、考えたりすることにつながる遊びや生活 ○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活 ○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しめる遊びや生活 等												健康 人間関係 表現 言葉 環境										○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるようになる活動（ex. 園で親しんだ活動（手遊び、歌、読み聞かせ）） ○生活科を中心とした総合的・関連的な指導による単元構成 ○日常生活とつながる学習活動 等										国語 算数 生活科 道徳 音楽 体育 義務教育としての基礎的な資質・能力の育成を目指した教育																													
④指導上の配慮事項		先生との関わり・役割 ・ 幼児にとつての教材である環境を構成する。 ・ 環境の下で幼児と適切な関わりをする。（活動の理解者、共同作業者・共鳴する者、憧れを形成するモデル、遊びや課題解決の援助者）												環境の構成・環境づくり ・ 幼児に関わる環境（人、もの、出来事、時間、空間等）を教材とし、整備・構成する。 ・ 幼児の主体的な遊びを大切に、どのような成長を願うのかといった先生の意図を環境に込め構成する。										・ 安心を生み、成長・自立を支える。（一緒に活動を楽しむ、温かく見守る、子供の目線に話を聞く。） ・ 幼児期の遊びを通じた総合的な指導を幼児教育の内容や支援等を、小学校にも適宜取り入れる。 ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をする。										・ 幼児教育現場における環境の工夫を取り入れ、指導の充実を図る。 ・ 授業で扱う学習教材だけでなく、子供が関わる環境（掲示物、教材の置き場所）等も学びに影響する環境とし、教材観を広げ、環境づくりを行う。																													
⑤子供の交流		・ 5歳児と1年生の交流会 ・ 5歳児と他学年との交流会 ・ 5歳児の1日入学 等																																																													
⑥関係者の交流（保育者、教諭、管理職、行政等）		・ 保育参観や授業参観（先生の関わり、環境構成、幼児・児童の育ちや発達等を学びあう） ・ 合同の研究会（例：7月、11月 共通の視点をもとにカリキュラム、環境、交流等について検討する） ・ 要録による伝達 等																																																													
⑦家庭や地域との連携		・ 子供の成長を共有し、肯定的に見守れるようにする。 ・ 生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。 等												・ 保護者が安心感もてるよう支援する。										・ 社会全体で子供の育ちや学びを支えるよう、関係者が連携し取組を進める。																																							

- ★実際の子供は、豊かで多様な環境との出会いの中で、様々な学びをし、発達している。研究会等では、子供の育ちの「個性」「多様性」を念頭に議論することが必要である。
- ★「架け橋期のカリキュラム」は、保幼小の関係者が協働で作成する。
- ★共通の視点①～⑦は例示であり、合同の研究会等で改めて設定してよいものである。
- ★「架け橋期のカリキュラム」を共有し、自園・所、自校のカリキュラムを見直し、改善し、実践につなげる。

#### 【架け橋期のカリキュラム（モデル案）】（巻末資料参照）

連続性・一貫性をもって連携・接続するために、関係者が共通の視点をもって子供の育ちや学びを考え、幼児教育と小学校教育をつなげる工夫が必要です。ここでは、モデル案として、①から⑦の共通の視点を例示しています。この共通の視点については、合同の研究会等で話し合い、改めて設定してよいものです。

共通の視点に基づいて、子供の姿を中心に据え、具体的に検討し、子供理解を深めた上で、カリキュラムに明記していきます。

#### ①期待する子供像

架け橋期を通してどのような子供を育てたいか共有します。子供の実態や発達の特徴、要領・指針等や学習指導要領で育みたい子供の姿、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、園・所、小学校の目指す子供像、各自治体や地域の願いや特性等を踏まえ、協議する中で設定し、記入します。

#### ②遊びや生活・学びのプロセス

期待する子供像の育成に向けて、子供の姿や発達を踏まえ、園・所の活動、小学校の活動や教科等のプロセスを、見通しをもって理解する必要があります。育ちや学びの連続性を確保するために相互理解が深まるよう、子供の姿を中心に情報共有し、記入します。

#### ③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、小学校の各教科等の活動や育みたい資質・能力等にどうつながっていくのか考えます。その上で、園・所の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくかについて検討し、記入します。

#### ④指導上の配慮事項

遊びや生活・学びのプロセスを深めるため、先生の関わり・役割、環境の構成・環境づくりとしての工夫について検討し、記入します。

#### ⑤子供の交流

交流を通じた学びを深めるため、各園・所、小学校の年間の活動に、子供同士の交流などの位置付けについて検討し、記入します。保育者や教諭等、子供に関わる大人が、子供の交流する姿を通して、発達や学びを理解する視点も重要です。

#### ⑥関係者の交流

子供に関わる関係者が子供の姿を共有し、連携・協働の在り方について検討し、記入します。

#### ⑦家庭や地域との連携

期待する子供像について家庭や地域と共有し、連携・協働の在り方について検討し、記入します。

## 2 5歳児のカリキュラム

幼児教育では、幼児期の発達の特徴に照らして、幼児の自発的な活動としての遊びを重要な学習として位置づけ編成された教育課程により、環境を通して、組織的・計画的な指導を行います。5歳児のカリキュラムは、小学校への接続も意識したもので、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにしながら、幼児教育段階ならではの資質・能力の基礎を育み、小学校教育以降の学びの土台となる、各園・所における子供の姿から具体的に編成されたカリキュラムのことです。

## ◆ 5歳児のカリキュラムの編成

### (1) 現在のカリキュラムの見直し

各園・所等で作成している5歳児のカリキュラムを、要領・指針等で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にしながら、小学校との円滑な接続も意識したカリキュラムになっているか、見直していきましょう。

編成に当たっては、育みたい資質・能力を踏まえつつ、各園・所等の教育・保育目標や5歳児の「目指す子供像」を明確にし、そのために身に付けていく力は何かを協議した上で計画を立てます。

幼児期は、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる発達の特徴があります。これを踏まえ、園・所等の生活の全体を通して要領・指針等に示されているねらいが総合的に達成されるよう、長期的な視野をもって充実した園・所生活が展開できるようにするとともに、活動がそれぞれの時期にふさわしく展開されるように配慮する必要があります。

5歳児のカリキュラム（モデル案）

図4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
	I期		II期			III期			IV期				
育みたい資質・能力	<b>生きる力の基礎</b> ◇知識及び技能の基礎 ◇思考力、判断力、表現力等の基礎 ◇学びに向かう力、人間性等						<b>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</b> (1) 健康な心と体 (2) 自立心 (3) 協同性 (4) 道徳性・規範意識の芽生え (5) 社会生活との関わり (6) 思考力の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重 (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9) 言葉による伝え合い (10) 豊かな感性と表現						
目指す子供の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級した喜びや自覚をもち、新たな生活に進んで取り組もうとする。</li> <li>・遊びや生活に自分なりの課題をもち、自分から取り組もうとする。</li> <li>・協同的に活動に取り組もうとする。</li> <li>・自分なりの目的をもち、見通しをもって活動に取り組もうとする。</li> <li>・友達と思いや考えを出しながら遊びを楽しもうとする。</li> <li>・就学に向かって、期待や喜びをもって生活しようとする。</li> </ul>												
遊びや学びのプロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試したり、考えたりしながら自分なりに意味つけていく。</li> <li>・興味をもって自ら身近な環境に関わる。</li> <li>・体験や活動をもとに、筋道立て考え、自分なりの答えを導き出そうとする。</li> <li>・様々な考えに触れ、感じたことや思ったことを自分なりに表現する。</li> </ul>												
生活のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって、自律的な生活習慣を確立する。</li> <li>・小学校へのあこがれをもって、生活に取り組む。</li> <li>・期待をもって学校生活に向かう。</li> </ul>												
環境構成 保育者の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を高める。</li> <li>・多様性を認め合える関係を築けるよう支える。</li> <li>・遊びに夢中になり、発展させることができるよう環境を構成する。</li> <li>・子供の自発的な活動を支え、挑戦意欲が高まるようにする。</li> <li>・子供同士の関わり合い、学び合いを支える。</li> </ul>												
節目となる園行事	始業式、入園式	七夕、お泊まり保育、終業式、夏期保育			始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式			始業式、豆まき、お別れ会、卒園式					
保幼小連携 教師間	・小学校の授業参観		・合同研究会			・小学校入学説明会			・情報交換、引き継ぎ		・要録送付		
子供 (交流活動)	・他学年との交流会			・1年生との交流会			・1日入学						
家庭との連携	・家庭での様子や園・所での姿を共有し、信頼関係を築く。		・子供の成長を共有し、共に肯定的に見守っていく。			・小学校入学への期待感を家庭と共に膨らませていけるようにする。			・就学に対して保護者が安心感をもてるよう支援する。			・就学に向けて、生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。	

【5歳児のカリキュラム（モデル案）】（巻末資料参照）

### (2) 小学校教育との接続

小学校教育への接続に当たって5歳児のカリキュラムでは、架け橋期のカリキュラムを踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度等の基礎を培うようにしましょう。

幼児が小学校教育へ円滑に接続できるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究を行ったり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有したりする等の連携の機会をカリキュラムの中に位置付けましょう。5歳児のカリキュラムを実施し、幼児が遊びや生活の中から何を学び、どのように育っているか、また保育者の働きかけの意図等を小学校の教師に語り、共有して引き継ぎます。

そのためには、園・所等で取り組んでいる評価や記録を見直しましょう。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、遊びや生活を通して子供がどのように育っているのかといった視点で、子供の見取りを整理し、接続につなげていきましょう。

### 3 スタートカリキュラム

スタートカリキュラムは、小学校へ入学した子供一人一人の経験を基に、園・所等の遊びや生活を通した育ちと学びを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくため、1年生前半に実施されるカリキュラムのことです。スタートカリキュラム実施時は、児童理解の時期だといえます。子供一人一人の違いを大切に、意図的に子供の個性（資質・能力）を見取りましょう。その際に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保幼小の共通の視点として、園・所等においては、子供一人一人のこれまでの経験を伝え、小学校においては、その情報を受け止め、児童理解を進めていきましょう。

子供が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えることも大切です。子供の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、子供を取り巻く学習環境を見直しましょう。

#### ◆ スタートカリキュラムの編成

##### (1) 幼児期の育ちや学びの経験を生かす

小学校入学当初は、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切な時期です。生活科を核として、幼児教育での育ちや学び、子供の視点を生かしながら小学校の学びにつなげていきます。「5歳児のカリキュラム」の内容や指導方法、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通した子供の姿を近隣の園・所等の保育者と共有したり、指導要録等を活用したりして、幼児教育を生かしたカリキュラムを編成しましょう。

##### (2) 編成する

###### ① 時間割の工夫

幼児教育と小学校教育では、1日の時間の流れが大きく違います。

入学当初は、子供の発達の特性に配慮し、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をします。つながりのある教科等のねらいを考え、合科的・関連的な指導を実施し、徐々に教科等を中心とした学習へ少しずつ移行していくなど、子供の成長に合わせてスタートカリキュラムを編成していきましょう。

## ○ 生活科を中心とした合科的・関連的な指導

合科的な指導とは、各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するものです。

関連的な指導とは、教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するものです。

## ○ 弾力的な時間割の設定

10分から15分程度の短い時間で時間割を設定したり、子供が自らの思いや願いの実現に向けた活動の時間を十分確保するために45分間の枠を超えて学習時間を設定したりするなど、弾力的に運用することです。

## ② 学習活動の工夫

幼児教育段階までの経験を通じた学びが想起され、生かされるよう、体験的な活動を大切にしましょう。子供が主体的に学習に向かえるように、子供の視点を生かした環境構成に配慮したり、子供が潜在的にもっている学びの経験を生かしたりするなどの工夫をし、授業の組み立てを考えましょう。

単元配列表(案)

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	あいうえおであそぼう				
	いちねんせい	よろしくね	はるのあさ	みつけたよ	ことばのひみつ
算数	なかまづくりとかず	くらべよう	10までのかず	なんぼんめ	いくつといくつ
生活	がっこうだいすき みんななかよし				
音楽	みんなであそぼう		おんがくとあわせて		
図画工作	すきなものいろいろ	じぶんマーク	こんなことあったよ	ねんどであそぼう	すなやつちとあそぼう
体育	からだほぐし	ゆうぐあそび		おにあそび	
道徳	げんきにあいさつ		たのしいがっこう	ともだちなかよく	いきものとなかよし
特別活動	入学式	1年生を迎える会		おしごとたのしいな	
	よろしくね	おいしいきゅうしょく			

スタートカリキュラム 週案(モデル案)

図5

4月 第2週(4月8日～4月12日)

行事	4月8日(月)	4月9日(火)	4月10日(水)	4月11日(木)	4月12日(金)
朝の活動	朝の自由遊び 自由遊び(室内遊び) ☆工作、折り紙、絵本、あやとり、お絵かき、カプラ等				
1	にこにこタイム なかよく遊ぼう①(読み聞かせ・遊び歌・声を合わせて歌おう・あいさつゲーム・友達づくりゲーム等) なかよく遊ぼう②(外自由遊び(道具・砂場・鬼ごっこ・ボール遊び・虫探し等)) ※1年生が知っている歌、絵本、遊びを中心に遊び、心をほぐす ※友達づくり、生活科や教科の学び等に関連していく題材を選ぶ				
2	きらきらタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム
3	学校のはてな(生活) ☆学校の分からないことや不思議に思うことを出し合って話し合う	がっこうたんけん(生活) ☆職員室、保健室、体育館、特別教室、各階など	みんなであそぼう(音楽・生活)	みんななかよし(生活)	げんきにあいさつ(道徳)
4	安全に帰ろう ・下校の準備をする ・安全な下校について話し合い、確認する ・あいさつ			学活	ぐんぐんタイム
5	おいしいきゅうしょく		学活		
	おいしいきゅうしょく		はじめてのそうじ		
	にこにこタイム(帰りの会)				

【スタートカリキュラム(モデル案)】 (巻末資料参照)

スタートカリキュラムの基本的な考え方は、子供が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるようになることです。

5月のゴールデンウィーク明けや夏休みなどの長期休業明けなども、子供達に不安感が見られます。こうした時期にもスタートカリキュラムの考え方を生かし、学習環境、時間割や学習活動を工夫し、展開していきましょう。

#### 4 カリキュラム編成の留意点

カリキュラム編成に向けて、まず子供の実態や発達の特徴を理解し、それらに応じた指導内容や方法を考えていきましょう。そのためには、園・所等と小学校の関係者が相互に参観したり、話し合ったりして、最初に、それぞれの生活の流れや指導の実際を知り、カリキュラム編成の参考にすることが大切です。

編成に当たり、近隣の園・所等と小学校等の関係者が集い、合同の研究会等を持ち、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を共通の視点として理解し、子供の育ちと学びを共有していきましょう。2年間の育ちを見通した架け橋期のカリキュラムを作成したり、また、つながりを考え、5歳児のカリキュラムやスタートカリキュラムを編成したりすることが大切です。

関係者が相互に信頼関係を築き、子供観や指導観を共有し、連続性・一貫性をもったカリキュラムを編成し、実施・改善までつなげていきましょう。

## ◆ 地域における合同研究会等のもち方（例）

### 1 メンバー

自治体担当、園・所・小学校の管理職、年長児担任、1年生担任、地域関係者、有識者 等

### 2 研究会の時期・内容



#### 【6～7月】

- ①架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）の育ちや発達についての話し合い
  - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解
  - ・幼児教育、小学校教育の理解 等
- ②2年間の「期待する子供像」等の話し合い
- ③新1年生の様子、スタートカリキュラムの効果等検討
- ④架け橋期のカリキュラムを土台にした、5歳児後半に実施されるカリキュラムの内容の検討

#### 【10～11月】

- ①年長児の様子や育ちの共有
- ②年長児と小学校1年生の姿の実態から、架け橋期のカリキュラムの見直し
- ③架け橋期のカリキュラムを土台にした、スタートカリキュラムの内容の検討

### 3 合同研究会等の留意点

- ・例えば研究会は、自治体の担当者が、園・所等や小学校、地域の関係者等との調整を行い、企画・開催することができる。また、小学校区内で園・所等と連携し、研究会を開催することも考えられる。
- ・2年間の架け橋期のカリキュラムについては、研究会のイニシアチブをとる者が調整すると作成しやすい。（モデル案を参考）
- ・研究会で検討されたカリキュラムの内容については、各園・所・小学校において、再度、具体的な取組内容の見直しを行い、組織全体で協力体制の下、編成・実施・改善につなげる。

\*合同研究会等の機会を通して、保幼小の関係者が顔の見える関係づくりをし、日常的に情報を共有したり、交流したりすることが重要である。



## 巻末資料

- 架け橋期のカリキュラム（モデル案）
- 5歳児のカリキュラム（モデル案）
- スタートカリキュラム（モデル案）
- 関連資料等



架け橋期のカリキュラム（モデル案）

		5歳児										小学校1年生													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
共通の視点		● それぞれの園・所、小学校の目指す子供像（教育目標）																							
①期待する子供像		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)健康な心と体、(2)自立心、(3)協同性、(4)道徳性・規範意識の芽生え、(5)社会生活との関わり、(6)思考力の芽生え、(7)自然との関わり・生命尊重、(8)数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚、(9)言葉による伝え合い、(10)豊かな感性と表現</li> </ul> </li> <li>●幼児期の教育を通して育まれてきたことを基に、学習の質に大きく関わる語彙を増やすことなど基礎的な知識及び技能を身に付ける</li> <li>●感性を豊かに働かせ身近な出来事から気付きを得て考える</li> <li>●自ら学びに向かう、自己の感情や行動を統制する、互いの違いと良さを認め生かして協働する</li> </ul>																							
②遊び・学びのプロセス		<p>◆遊びを通して、多様な仕方方で環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を発見する。</p> <p>◆学びを通して、多様な仕方方で環境に関わり、各教科の学習内容について授業を通して個別の学びの立ち上がり</p> <p>◆幼児期の経験を生かす</p> <p>あ、こういうことなんだね (自覚的な学びへの意欲)</p> <p>あ、こういうことなんだね (自覚的な学びへの意欲)</p>																							
生活のプロセス		<p>◆遊びを通して、多様な仕方方で環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を発見する。</p> <p>◆学びを通して、多様な仕方方で環境に関わり、各教科の学習内容について授業を通して個別の学びの立ち上がり</p> <p>◆幼児期の経験を生かす</p> <p>あ、こういうことなんだね (自覚的な学びへの意欲)</p> <p>あ、こういうことなんだね (自覚的な学びへの意欲)</p>																							
③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等		<p>5歳児のカリキュラム</p> <p>健康 表現 言葉 人間関係 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○明るく伸び伸び行動したり、進んで運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活</li> <li>○身近な人と親しみ、工夫したり、協力したりして一緒に活動することを楽しめる遊びや生活</li> <li>○身近な環境に親しみ、発見を楽しんだり、考えたりすることにつながる遊びや生活</li> <li>○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活</li> <li>○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しめる遊びや生活</li> </ul>												<p>1年生のカリキュラム</p> <p>算数 国語 道徳 生活科 図工 音楽 体育 義務教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるよう活動(手遊び、歌、読み聞かせ)</li> <li>○生活科を中心とした総合的・関連的な指導による単元構成</li> <li>○日常生活とつながる学習活動等</li> </ul>											
④指導上の配慮事項		<p>先生との関わり・役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児にとつての教材である環境を構成する。</li> <li>・環境の下で幼児と適切な関わりをする。(活動の理解者・共同作業者・共鳴する者、憧れを形成するモデル、遊びや課題解決の援助者)</li> </ul>												<p>先生との関わり・役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の遊びを通じた総合的な指導を意図しながら、子供一人一人の個性(資質・能力)を見取る。</li> <li>・幼児教育現場における環境の工夫を取り入れ、指導の充実を図る。</li> <li>・授業で扱う学習教材だけでなく、子供が関わる環境(掲示物、教材の置き場所)等も学びに影響する環境とし、教材観を広げ、環境づくりを行う。</li> </ul>											
⑤子供の交流		<p>5歳児と1年生の交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児と他学年との交流会</li> <li>・5歳児の1日入学</li> </ul>												<p>5歳児と1年生の交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児と他学年との交流会</li> <li>・5歳児の1日入学</li> </ul>											
⑥関係者の交流(保育者、教諭、管理職、行政等)		<p>保育参観や授業参観(先生の関わり、環境構成、幼児・児童の育ちや発達等を学ぶあう)</p> <p>合同の研究会(例:7月、11月 共通の視点をもちカリキュラム、環境、交流等について検討する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要領による伝達</li> <li>・要領による伝達</li> </ul>																							
⑦家庭や地域との連携		<p>子供の成長を共有し、肯定的に見守れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が安心感をもてるよう支援する。</li> <li>・社会全体で子供の育ちや学びを支えるよう、関係者が連携し取組を進める。</li> <li>・生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。</li> </ul>																							

★実際の子供は、豊かで多様な環境との出会いの中で、様々な学びをし、発達している。研究会等では、子供の育ちの「個別性」「多様性」を念頭に議論することが必要である。

★「架け橋期のカリキュラム」は、保幼小の関係者が協働で作成する。

★共通の視点①～⑦は例示であり、合同の研究会等で改めて設定してよいものである。

★「架け橋期のカリキュラム」を共有し、自園・所、自校のカリキュラムを見直し、改善し、実践につなげる。

架け橋期のカリキュラム（モデル案）

0歳～	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
共通の視点	5歳児												小学校1年生		
①期待する子供像	●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 架け橋期を通してどのような子供を育てたいか。 子供の実態や発達の特徴、3要領・指針や学習指導要領で育みたい子供の姿、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、園・所、小学校の目指す子供像（教育目標）、各自治体や地域の願いや特性												●それぞれの園・所、小学校の目指す子供像（教育目標） ●各自治体・地域の願い		
②遊び・学びのプロセス	◆遊びを通して、多様な仕方や環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を発見する。 期待する子供像の育成に向けて、子供の姿や発達を踏まえ、園・所、所の活動や小学校の活動や教科等のプロセスを見通しをもって理解する。												◆学びごこちへの意識があり、各教科の学習内容について授業を通して個別の学習活動や協働的な学習活動をし、楽しんでいく。 あ、こういうことなんだね（自覚的な学びの芽生え） もっと知りたいな（自覚的な学びへの意欲）		
生活のプロセス	5歳児のカリキュラム												1年生のカリキュラム		
③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等	<p>健康 表現 言葉 環境</p> <p>○明るく伸び伸び行動したり、進んで運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活</p> <p>○身近な人と親しみ、工夫したり、協力したりして一緒に活動することを楽しめる遊びや生活</p> <p>○園・所の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。</p> <p>○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活</p> <p>○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しめる遊びや生活 等</p>												<p>◆スタートカリキュラム</p> <p>○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるよう にする活動（ex. 園で親しんだ活動（手遊び、歌、読み聞かせ））</p> <p>○日常生活とつながる学習活動 等</p> <p>○生活科を中心とした統合的・関連的な指導による単元構成</p> <p>○日常生活とつながる学習活動 等</p> <p>○道徳 国語 算数 生活科 図工 音楽 体育 義務教育としての基礎的な資質・能力の育成を目指した教育</p>		
④指導上の配慮事項	先生の関わり・役割												<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心を生み、成長・自立を支える。（一緒に活動を楽しむ、温かく見守る、子供の目線と話を聞く）</li> <li>・幼児教育の内容や支援等を、小学校にも適宜取り入れる。</li> </ul>		
⑤子供の交流	遊びや生活・学びのプロセスを深めるため、先生の関わり・役割、環境の構成・環境づくりとしてどのような工夫があるか。												<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育現場における環境の工夫を取り入れ、指導の充実を図る。</li> <li>・授業で扱う学習教材だけでなく、子供が関わる環境（掲示物、教材の置き場所）環境づくりを行う。</li> </ul>		
⑥関係者の交流（保育者、教諭、管理職、行政等）	保育参観や授業												<ul style="list-style-type: none"> <li>・要録による伝達 等</li> </ul>		
⑦家庭や地域との連携	子供の成長を共有し、肯定的に見守れるよう												<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待する子供像について家庭や地域と共有し、どのように連携協働していくか。</li> </ul>		

★実際の子どもは、豊かで多様な環境との出会いの中で、様々な学びをし、発達している。研究会等では、子供の育ちの「個性」「多様性」を念頭に議論することが必要である。

★「架け橋期のカリキュラム」は、保幼小の関係者が協働で作成する。

★共通の視点①～⑦は例示であり、合同の研究会等で改めて設定してよいものである。

★吹き出しにあるような視点で話し合い、子供や地域の実態に沿った内容を具体的に明記する。

★「架け橋期のカリキュラム」を共有し、自園・所、自校のカリキュラムを見直し、改善し、実践につなげる。

5歳児のカリキュラム（モデル案）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～															
		I期					II期					III期					IV期												
育みたい 資質・能力		<p><b>生きる力の基礎</b></p> <p>◇知識及び技能の基礎 ◇思考力、判断力、表現力等の基礎 ◇学びに向かう力、人間性等</p>													<p><b>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</b></p> <p>(1) 健康な心と体 (2) 自立心 (3) 協同性 (4) 道徳性・規範意識の芽生え (5) 社会生活との関わり (6) 思考力の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重 (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9) 言葉による伝え合い (10) 豊かな感性と表現</p>														
目指す子供の姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活に自分なりの課題をもち、自分から取り組もうとする。</li> <li>遊びや生活に自分なりの課題をもち、自分から取り組もうとする。</li> <li>協同的に活動に取り組もうとする。</li> <li>自分なりの目的をもち、見通しをもって活動に取り組もうとする。</li> <li>友達と思考や考えを出しながら遊びを楽しもうとする。</li> <li>進級した喜びや自覚をもち、新たな生活に進んで取り組もうとする。</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活に自分なりの課題をもち、自分から取り組もうとする。</li> <li>協同的に活動に取り組もうとする。</li> <li>自分なりの目的をもち、見通しをもって活動に取り組もうとする。</li> <li>友達と思考や考えを出しながら遊びを楽しもうとする。</li> <li>進級した喜びや自覚をもち、新たな生活に進んで取り組もうとする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な考えに触れ、感じたことや思ったことを自分なりに表現する。</li> <li>体験や活動をもとに、筋道立てて考え、自分なりの答えを導き出そうとする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって、自律的な生活習慣を確立する。</li> </ul>				
遊びや 学びのプロセス		<ul style="list-style-type: none"> <li>興味をもって自ら身近な環境に関わる。</li> <li>試したり、考えたりしながら自分なりに興味づけていく。</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な考えに触れ、感じたことや思ったことを自分なりに表現する。</li> <li>体験や活動をもとに、筋道立てて考え、自分なりの答えを導き出そうとする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>期待をもって学校生活に向かう。</li> </ul>									
生活のプロセス		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高める。</li> <li>多様性を認め合える関係を築けるよう支える。</li> <li>遊びに夢中になり、発展させることができるよう環境を構成する。</li> <li>子供の自発的な活動を支え、挑戦意欲が高まるようにする。</li> <li>子供同士の関わり合い、学び合いを支える。</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高める。</li> <li>多様性を認め合える関係を築けるよう支える。</li> <li>遊びに夢中になり、発展させることができるよう環境を構成する。</li> <li>子供の自発的な活動を支え、挑戦意欲が高まるようにする。</li> <li>子供同士の関わり合い、学び合いを支える。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>期待をもって学校生活に向かう。</li> </ul>									
環境構成 保育者の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高める。</li> <li>多様性を認め合える関係を築けるよう支える。</li> <li>遊びに夢中になり、発展させることができるよう環境を構成する。</li> <li>子供の自発的な活動を支え、挑戦意欲が高まるようにする。</li> <li>子供同士の関わり合い、学び合いを支える。</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高める。</li> <li>多様性を認め合える関係を築けるよう支える。</li> <li>遊びに夢中になり、発展させることができるよう環境を構成する。</li> <li>子供の自発的な活動を支え、挑戦意欲が高まるようにする。</li> <li>子供同士の関わり合い、学び合いを支える。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高める。</li> <li>多様性を認め合える関係を築けるよう支える。</li> <li>遊びに夢中になり、発展させることができるよう環境を構成する。</li> <li>子供の自発的な活動を支え、挑戦意欲が高まるようにする。</li> <li>子供同士の関わり合い、学び合いを支える。</li> </ul>									
節目となる園行事		始業式、入園式	七夕、お泊まり保育、終業式、夏期保育	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、夏期保育	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式	始業式、運動会、遠足、生活発表会、クリスマス会、終業式															
保幼小連携 教師間		<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の授業参観</li> <li>合同研究会</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の授業参観</li> <li>合同研究会</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校入学説明会</li> <li>情報交換、引き継ぎ</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校入学説明会</li> <li>情報交換、引き継ぎ</li> </ul>				
子供 (交流活動)		<ul style="list-style-type: none"> <li>他学年との交流会</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>他学年との交流会</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生との交流会</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生との交流会</li> </ul>				
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での様子や園・所での姿を共有し、信頼関係を築く。</li> <li>子供の成長を共有し、共に肯定的に見守っていく。</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での様子や園・所での姿を共有し、信頼関係を築く。</li> <li>子供の成長を共有し、共に肯定的に見守っていく。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での様子や園・所での姿を共有し、信頼関係を築く。</li> <li>子供の成長を共有し、共に肯定的に見守っていく。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での様子や園・所での姿を共有し、信頼関係を築く。</li> <li>子供の成長を共有し、共に肯定的に見守っていく。</li> </ul>				

スタートカリキュラム

## スタートカリキュラム（モデル案）

### 期待する児童の姿

- 安心して自分を発揮できる子供
- みんなと楽しみながら関わる子供
- 好奇心をもち、学びに夢中になる子供

朝の自由遊び・・・友達と誘い合って自由に遊べる時間  
にこにこタイム・・・安心をつくる時間

◎朝の会、給食のしたく、帰りの会、読み聞かせ、  
遊び歌、ゲーム、外遊び等

◎先生や友達と仲良くなったり、余裕をもって過ごし  
たりする。

◎安心感をもたせ楽し気持ちで一日タートさせたり、  
明日への期待感をもたせたりして一日を終える。

きらきらタイム・・・生活科を中心とした学習活動

ぐんぐんタイム・・・教科等を中心とした学習活動

### 【スタートカリキュラムの実施における配慮事項】

- ①幼児教育までの子供たちの育ちと学びを大切にする。
  - ・園ではどうだった？
- ②学級は、子供と一緒につくる。
  - ・1組ではどうする？ 小学校ではどうする？
- ③自分で考える。
  - ・どうしたらいいと思う？ どうしたいの？
- ④疑問を共有する。
  - ・いいはてなだね！ 伝え合おう！
- ⑤一人一人に応じた支援をする。
  - ・「困った子」ではなく、「困っている子」と捉える
- ⑥子供たちの生活リズムや思考の流れに合った弾力的な時間割を設定する。
- ⑦話したい、聞きたい雰囲気をつくる。
  - ・笑顔、頷き、視線を合わせる、肯定的な言葉かけ、受容的な応答 等
  - ・話題、教材、教具、活動の工夫
- ⑧全校で、1年生の育ちを支援する。
- ⑨個に応じた環境の工夫をする。
  - ・音声言語だけでなく、視覚に訴える絵や写真の活用
  - ・クールダウンできるコーナーの設定

# 単元配列表(案)

合科的な指導  $\longleftrightarrow$  関連的な指導  $\longrightarrow$

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週		
	あいうえおであそぼう						
国語	いちねんせい	よろしくね	はるのあさ	みつけたよ	ことばのひみつ	あめのひ	ともだちとはなそう
算数	なかまづくりとかず	くらべよう	10までのかず		なんばんめ	いくつといくつ	
生活	がっこうだいすき みんななかよし					おおきなあれ	
音楽	みんなであうたおう			おんがくにあわせて			
図画工作	すきなものいろいろ	じぶんマーク	こんなことあったよ	ねんどであそぼう	すなやつちとあそぼう		
体育	からだほぐし		ゆうぐあそび	おにあそび			
道徳	げんきにあいさつ		たのしいがっこう	ともだちとなかよく	いきものとなかよし		
特別活動	入学式 よろしくね	1年生を迎える会 おいしいきゅうしょく		おしごとたのしいな			

スタートカリキュラム 週案 (モデル案) ※ 4月4日 (木) が入学式の場合

4月 第1週(4月4日～4月5日)

	4月1日(月)	4月2日(火)	4月3日(水)	4月4日(木)	4月5日(金)
行事				入学式	
朝の活動					朝の自由遊び
1					自由遊び (室内遊び)
2					にこにこタイム
3					ふれあい遊び
4					学活
5					はじめての しょうがっこう 「よろしくね」
3					
4					
5					

本事例の「にこにこタイム」について

「スタートカリキュラム スタートブック」(文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成 27年1月)に以下のように示されています。

※この時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられます。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要があります。)

本事例では、「にこにこタイム」を、授業時数以外の教育活動として位置付けています。

スタートカリキュラム 週案 (モデル案)

4月 第2週(4月8日～4月12日)

	4月8日(月)	4月9日(火)	4月10日(水)	4月11日(木)	4月12日(金)
行事				給食開始	1年生を迎える会
朝の活動	朝の自由遊び				
	自由遊び(室内遊び) ☆工作, 折り紙, 絵本, あやとり, お絵かき, カプラ 等				
1	にこにこタイム				
	なかよく遊ぼう①(・読み聞かせ・遊び歌・声を合わせて歌おう・あいさつゲーム・友達づくりゲーム 等) なかよく遊ぼう②(・外自由遊び(・遊具・砂場・鬼ごっこ・ポール遊び・虫探し 等) ※1年生が知っている歌、絵本、遊びを中心に選び、心をほぐす ※友達づくり、生活科や教科の学び等に関連していく題材を選ぶ				
2	きらきらタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム
	学校のはてな(生活) ☆学校の分からないことや不思議に思うことを出し合って話し合う	がっこうたんけん(生活) ☆職員室, 保健室, 体育館, 特別教室, 各階など	みんなであたおう(音楽・生活)	みんななかよし(生活)	げんきにあいさつ(道徳)
3			きらきらタイム	ぐんぐんタイム	学校行事
			みんななかよし(生活)	からだほぐし(体育)	1年生を迎える会
	にこにこタイム(帰りのしたく)				
4	安全に帰ろう ・下校の準備をする ・安全な下校について話し合い、確認する ・あいさつ			学活	ぐんぐんタイム
				おいしいきゅうしょく	すきなもののいろいろ(図工)
					学活
5				学活	
				はじめてのそうじ	
				にこにこタイム(帰りの会)	



# スタートカリキュラム 週案 (モデル案)

スタートカリキュラムの実施期間は、園・所等との引き継ぎを生かし、**一人一人の子供の様子を観察**しましょう。  
表情は、好きなことは、どんなことに困っているのかな、など。  
**個性 (資質・能力)**を見取りましょう。

## 4月 第2週 (4月8日～4月12日)

入学前の園・所等での生活では、登園時間に幅があります。子供たちは登園後、身支度を整えてから自分の好きな遊びをして過ごします。

小学校入学当初に、園・所等で過ごした時間の流れを取り入れることが**子供の安心感**につながります。自由に遊べるスペースを設けたり、遊びに自由に使える材料などを置いたりするなど、**環境の工夫**をしましょう。

自由に遊ぶ活動を通して、**新たな友達とも自然に関わり合う**こともできます。

4月10日(水)

朝の自由遊び

自由遊び(室内遊び)

絵本、あやとり、お絵かき、カプラ 等

1	にこにこタイム			幼児期に親しんできた遊びや活動をすることで、 <b>楽しく、安心した気持ちで一日をスタート</b> できるようにします。  これまで経験してきた活動を設定し、子供が「知っている」「わかる」「できる」・・・と、 <b>自信をもって取り組める</b> ように配慮します。  心と体をほぐし、 <b>入学当初の不安や緊張の解消</b> につなげましょう。
	なかよく遊ぼう①(・読み聞かせ・遊び歌・声を合わせて)	なかよく遊ぼう②(・外自由遊び(・遊具・砂場・鬼ごっこ))	※1年生が知っている歌、絵本、遊びを中心に選び、心を	
2	きらきらタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	
	生活科を中心とした <b>総合的・関連的な指導</b> を行います。  子供が発見した <b>疑問、活動の中で自らの思いや願いから</b> 、学校探検や季節の遊びなど、具体的な活動や体験を通して、 <b>教科等との関連を図り、主体的な学び</b> をつくっていきます。			
3	みんななかよし(音楽)	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	
	みんななかよし(生活)	からだほぐし(体育)	学校行事	
4	安全に帰ろう		ぐんぐんタイム	
	・下校の準備をする ・安全な下校について話し合い、確認する ・あいさつ		すきなものいろいろ(図工) 学活 おいしいきゅうしょく	
子供が自由に使える材料を準備したり、リラックスできる場所を確保したりするなど、環境を整えることで緊張がほぐれます。  安心感をもち、自分の力を発揮しながら生活や学習ができるように、学習環境を工夫しましょう。			学活 はじめてのそうじ にこにこタイム(帰りの会)	



スタートカリキュラムの基本的な考え方は、**子供が安心感をもち、自分の力で学校生活を送る**ことができるようにすることです。

**5月のゴールデンウィーク明けや夏休みなどの長期休業明けなども、スタートカリキュラムの考え方を生かし、学習環境、時間割や学習活動を工夫し、展開していきましょう。**

スタートカリキュラム 週案 (モデル案)

4月 第3週(4月15日～4月19日)

	4月15日(月)	4月16日(火)	4月17日(水)	4月18日(木)	4月19日(金)
行事	身体測定				
朝の活動	朝の自由あそび				
	自由遊び(室内遊び) ☆工作, 折り紙, 絵本, あやとり, お絵かき, カプラ 等				
1	にこにこタイム				
	朝の会(・リズム体操 ・あいさつ ・健康観察 ・読み聞かせ ・ふれあいゲーム 等)				
2	行事/ にこにこタイム	きらきらタイム	にこにこタイム	にこにこタイム	きらきらタイム
	身体測定 外遊び	なかよしチームで がっこうたんけん (生活)	外遊び	外遊び	
3	ぐんぐんタイム	きらきらタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	はるをさがしに (生活)
	めいしをつくろう (国語・図工)	がっこうたんけん はっけんしたよ (生活・国語)			
4	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	2ねんせいと がっこうたんけん (生活)	パンやさんになろう (図工)	ぐんぐんタイム
	めいしこうかんで なかよくなるう (生活)	言葉遊び かるた (国語)			みつけたはるを かこう (図工・生活)
にこにこタイム(給食のしたく)					
5	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム
	うたでなかよし (音楽)	たのしいがっこう (道徳)	カラスのパンやさん (国語)	パンはいくつ できたかな(算数)	みつけたはるをおし えて(国語・生活)
にこにこタイム(帰りの会)					

スタートカリキュラム 週案 (モデル案)

4月 第4週(4月22日～4月26日)

	4月22日(月)	4月23日(火)	4月24日(水)	4月25日(木)	4月26日(金)
行事					
朝の活動	朝の自由遊び				
	自由遊び(室内遊び) * 朝のリラックスタイム、友達づくり				
1	にこにこタイム				
	朝の会(・リズム体操 ・あいさつ ・健康観察 ・読み聞かせ ・ふれあい遊び 等)				
	ぐんぐんタイム おはなしきいて(最近、気になっていることのお話をしよう)(国語)				
2	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム
	リズム遊び うたでなかよし (音楽)	仲間集めゲーム どちらがおおい (算数)	どんなおはなしかな ひらがな (国語)	〇こ集めゲーム 10までのかず (算数)	どんなおはなしかな ひらがな (国語)
3	ぐんぐんタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム
	すきなもののあに (図工)	なかよしチームで がっこうたんけん (生活)	ならびっこ リズムたいそう (体育)	言葉遊び ひらがな (国語)	なんていおうかな (国語)
仲間集めゲーム (算数)			ぐんぐんタイム	きらきらタイム	ぐんぐんタイム
4			数字を探そう 10までのかず (算数)	はるをさがしに (生活)	数字遊び 10までの数 (算数)
	にこにこタイム(給食のしたく)				
5	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム
	おはなしかせて (国語)	がっこうたんけで発見 したことをチームで話し 合う(生活)  言葉遊び ひらがな (国語)	リズム遊び うたでなかよし (音楽)	リズム体操 リレーあそび (体育)  人数あつめゲーム (算数)	ともだちとなかよく (道徳)

スタートカリキュラム 週案（モデル案）

4～5月 第5週（4月29日～5月3日）

	4月29日(月)	4月30日(火)	5月1日(水)	5月2日(木)	5月3日(金)
行事	昭和の日				憲法記念日
朝の活動		朝の自由遊び			
		自由遊び(室内遊び)			
1		にこにこタイム			
		朝の会(・リズム体操 ・あいさつ ・健康観察等)			
		きらきらタイム(生活)			
		おはなしきいて			
2		ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	
		数字遊び 10までのかず (算数)	うたにあわせて あいうえお ひらがな (国語)	数字遊び 10までのかず (算数)	
3		きらきらタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	
		たのしかったね がっこうたんけん (生活・国語)	かけっこ ゆうぐあそび (体育)	うたにあわせて あいうえお ひらがな (国語)	
4			ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	
			数字遊び 10までのかず (算数)	かけっこ ゆうぐあそび (体育)	
		にこにこタイム(給食のしたく)			
5		ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	ぐんぐんタイム	
		うたにあわせて あいうえお ひらがな (国語)	リズム遊び うたでなかよし (音楽)	しぜんとなかよし (図工・生活)	

## 関連資料等

資料名	掲載場所 [URL アドレス]	QR コード
「幼稚園教育要領」平成29年「幼稚園教育要領解説」平成30年 文部科学省	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htm</a>	
「保育所保育指針」平成29年「保育所保育指針解説」平成30年 厚生労働省	<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html</a>	
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」平成29年「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年内閣府 文部科学省 厚生労働省	<a href="https://www8.cao.go.jp./shoushi/kodomoen/kokuji.html">https://www8.cao.go.jp./shoushi/kodomoen/kokuji.html</a>	
「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説」平成29年 文部科学省	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a>	
「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」令和4年3月31日 文部科学省	<a href="https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_3.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_3.pdf</a>	
「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料(初版)」令和4年3月31日 文部科学省	<a href="https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_4.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_4.pdf</a>	
幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)等に関する動画 幼保小の架け橋プログラムに期待すること(動画) 文部科学省	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm</a>	
「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告書)」平成22年 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議	<a href="http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf">http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf</a>	
「スタートカリキュラムスタートブック」平成27年 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター	<a href="https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf">https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf</a>	
「保育所・幼稚園・小学校の連携事例集」平成21年 文部科学省 厚生労働省	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258039.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258039.htm</a>	
スタートカリキュラムの効果的な活用を平成31年 山梨県教育委員会	<a href="http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/youji/2018/SCL.pdf">http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/youji/2018/SCL.pdf</a>	

## 令和4年度 保幼小連携・接続研究会 構成員一覧

〈敬称略〉

寶來 生志子	横浜市立恩田小学校校長
若本 純子	山梨大学 教授 山梨大学教育学部附属幼稚園 園長
大野 歩	山梨大学 准教授
川島 亜紀子	山梨大学 准教授
荻原 ひろみ	山梨大学教育学部附属幼稚園 副園長
小林 俊彦	甲州市教育委員会 教育長
岩下 和子	甲州市教育委員会 指導主事
渡井 渡	市川三郷町教育委員会 教育長
村松 悟	富士吉田市教育研修所 所長
高村 高夫	山中湖村教育委員会 教育長
松浦 一幸	富士河口湖町教育委員会 教育長
伊神 美香	中北教育事務所 主幹・指導主事
渡辺 政子	峡東教育事務所 主幹・指導主事
伊藤 悟	峡南教育事務所 主幹・指導主事
深澤 隆仁	富士・東部教育事務所 指導主事
小笠原 睦美	子育て政策課 副主幹
村田 利恵	義務教育課 副主幹・指導主事
山下 春美	義務教育課 主幹・指導主事 (やまなし幼児教育センター)
永田 恵子	義務教育課 専門員 (やまなし幼児教育センター)





YECDEC

## やまなし幼児教育センター

〒400-8510

甲府市武田4-4-37 (山梨大学J号館内)

TEL : 055-220-8143

FAX : 055-220-8145